

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600568		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	静岡県三島市徳倉3-1-51		
自己評価作成日	平成29年11月19日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私らしく あなたらしく」を理念に、利用者様一人一人に寄り添うケアを大切にしています。食事は好みに応じた栄養バランスの良い手作りの料理を提供し、利用者様に食べる楽しみと喜びを感じて頂いています。定期的な回想法や体操のレクリエーションを通じて利用者様の体と心の活性化と健康維持を図っています。看取りにも対応し、最期までホームでその人らしく生活して頂ける様に医療と連携しながら支援しています。市内の中学校での認知症サポーター養成講座講師派遣や職業体験学習の受入れ等も積極的に行い、地域社会に認知症介護への理解と協力を発信しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JgyosyoCd=2270600568-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念である「わたしらしく あなたらしく」を実践し、食事では朝パン食の方には別メニューで提供する等一人ひとりに寄り添い、個別ケアをできるように努力している。また、回想法レクやいきいき体操、誕生日会レク等で活性化を図っている。利用者が高齢化し、体調が悪くなると重度化しやすい状況になっているので、医療との連携に力を入れ、協力医療機関、訪問看護、訪問歯科と関係を構築している。施設内の装飾は季節感が感じられ、落ち着いた色合いでまとめられ、また、イベントの写真の掲示が多く、家族や職員と共に思い出話をしている。個々の居室は利用者が過ごしやすいように家族が使い慣れた物を準備し、その人の好きな物や花や写真等できるだけ近くに置けるように支援していて、個性的な賑やかな雰囲気になっていて、その人らしさが伺える。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 12月 6日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「私らしく あなたらしく」をホーム玄関と事務所内に掲示し、職員は常に意識しながら実践している。	理念は事業所開設当時に作られたものでホーム長の交代の時に変更するかどうか検討したが、継続して使用することになった。新人研修で詳しく説明を行い、個性を尊重しようとする職員の行動指針になっている。何かあった時には立ち戻るより処である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域行事に参加協力したり、回覧板等で情報共有している。事業所としても地域の保護司・募金活動・幼稚園児の安全支援・サッカーや野球少年団の活動に賛同協力している。	自治会行事に利用者、職員が参加している。土地の所有者関係の見学者が来る。退去された家族や土地のオーナーの奥さんが野菜を届けてくれる。傾聴ボランティアや中学生の職業体験、大学生ボランティアを受け入れ、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が市内中学校で認知症サポーター養成講座の講師を担当し、認知症理解とケアについて講座を行っている。地域の中学生職業体験学習の受入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や課題をホーム会議やユニット会議で取り上げ、サービスに反映させている。ホームの利用者様の声は会議に出席されている三島市介護相談員様からも報告が有る。	利用者、民生委員、介護相談員、行政が参加し定期的に開催している。利用者の状況や活動の報告を行い、地域の情報を収集すると共に、看取りケアや感染症対策等について活発に意見交換されていて、運営に活かしている。議事録はインターネットで公開されている。	家族の参加がなく、引き続き呼びかけ参加してもらえるような取組に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	三島市のグループホーム連絡協議会に参加し、今年度は協会事務局としても市や他事業所との連携協力を図っている。事故報告・利用状況・運営推進会議内容等の行政報告も行っている。	3ヶ月に一度行われる市主催のグループホーム連絡会で今年は事務局として一般の職員の交流を行い好評を得た。市よりメールやFAXで研修会のお知らせがあり、ホーム長等が参加し、職員に内容を報告している。地域包括支援センターとは電話で情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行い、管理者を長とした身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束を行わないケアを実践している。事業所内で身体拘束廃止研修を実施したり、ポスターを掲示している。玄関は夜間帯以外は施錠していない。	身体拘束委員会の委員が各フロアに1名ずつについて、全体研修で身体拘束の内部研修をしている。スピーチロックや声の掛け方で問題がある場合はホーム長が直接指導をし、職員同志で意識して改善されている。	

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会・事故対策委員会を中心に、高齢者虐待防止について職員と共有し、事業所内の虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度利用の入居者様はいないが、情報はファイルし職員が内容を共有したり、相談があった際に対応出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者から重要事項説明を十分に行い御納得頂いた上で、契約締結している。改定時は説明の上、文書で同意確認も行っている。解約時は不明点や疑問点があれば解約後も随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置や家族会の開催だけでなく、利用者様からは普段の生活の中で、御家族様からは面会時や電話連絡時等で、意見や要望を伺う様に努め、運営に反映させている。三島市介護相談員様も毎月利用者様の声を届けて下さっている。	主に日常の面会時に担当職員、ケアマネジャー、ホーム長が声をかけ、意見や要望を聞いている。タイミングが合わない時は電話をして聞いている。入居の奥様の婦人服の購入について夫より相談を受けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議で意見提案を聞いたり、日常の業務の中でも意見提案を管理者に伝えられるようにしている。	2ヶ月に一度のホーム会議ではシフト等の業務上のことや市からの連絡事項、各ユニットの報告があり、1ヶ月に2回のユニット会議では、司会者を交代して、カンファレンスやフロアーの様子等の話し合いが行われ、活発な意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	本社による労務管理や給与改定の下に、事業所内でも職員個々の能力を鑑み、事情に配慮した職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の助成金制度を利用し3名の職員が働きながら初任者・実務者研修を受講し、介護福祉士を目指している。法人内外の研修にも積極的に参加している。		

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の管理者会議や管理者・職員研修の開催、市や地域の連絡会や研修会への参加を通じて、サービスの質向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントや入居前面談を丁寧に行い、御本人の思いを十分に汲取り、信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から御家族様や関係者の要望や悩みを細かく伺い対応している。センター方式等で御家族様の思いや意向も伺い、サービスに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後のカンファレンス等で実際にホームで生活する上での利用者様の状況を確認しながら、御家族様の要望も踏まえて、最適なケアが提供出来る様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の尊厳と自己決定を大切にし、敬意と寄り添う気持ちを持って利用者様と向き合う様に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様ともコミュニケーションを取りながら、御家族様・職員が共に協力し利用者様を支援出来る関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会や、御家族様に御協力頂きながら馴染みの場所への外出の機会を支援している。馴染みの美容院や寺院へ外出される利用者様もいらっしゃる。	家族や近所の人、友人の来所があり、関係が継続できるよう支援している。家族対応で美容院や寺院へ外出し、外食も楽しんでいる。面会時間は制限がない。家族から手紙やプレゼントが届くとお礼の手紙を書いたり、電話をする手助けをしている。	

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者様同士が自然な形でコミュニケーションを取り易い環境を作っている。医療上、ベッドで過ごされている方も離床し共用部で一緒に過ごす時間を持つように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様の御家族様がホームを訪問されたり、病院や施設の相談員やCMから相談を受けたりする事も有り、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	看取りも含めた総合的な御本人の意向や願いを伺い、ホームで出来る限りの支援を行っている。	入居時に本人、家族、関係者から暮らし方の意向や希望をできるだけ聞いている。困難な場合は本人の表情を見て、訪問看護師などと連携して対応している。ペットと一緒に暮らすことは、職員全員で話し合って決めた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用や面談だけでなく、日常会話や面会時の談話等からも利用者様の生活歴やバックグラウンドを理解する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス等で個別のADLや状態を共有し、利用者様の出来る事を活かして、現状に合った支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMを中心としてユニット職員全体がモニタリングを行うと共に、御本人や御家族様の要望、医療職や関係者の助言や意見も取り入れ、介護計画に反映させている。	ケアマネジャーが独自に考えた月別のモニタリングシートを活用して、毎月モニタリングを実施している。また、訪問マッサージ師、医師、訪問看護師、薬剤師の意見も取り入れ、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ベースとなる書式以外にも必要に応じて24時間シートや個別シートを作成活用し、情報共有と利用者様の状態把握に努め、ケアに取り入れている。		

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内だけでなく、医療機関や地域活動やボランティア等と連携協力を図りながら、様々な角度から支援出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や自治会、地域包括支援センターや民生委員と連携協力し、地域資源を活かしてその人らしく生活出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関だけでなく、利用者様の希望される医療機関や専門医の受診支援、緊急時の入院加療の支援等を行っている。	ホームには2つの医院からの往診がある。通院は原則家族対応で、医師には事前にFAXで体調等の情報を送付し、結果は家族より報告を受ける。家族が行けない場合は職員が対応する。希望者には訪問歯科医の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護時に看護師への情報提供や相談を行っている。職員が事前に看護師に伝達する内容を記入するシートを活用し、細かな情報もきちんと報告出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者やCMが病院のMSWと連携協力し対応している。病状的にホームへの帰設困難な場合はMSWや御家族様と相談しながら必要なサービスが受けられるように支援している。病院や医師会主催の研修会等にも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の面談や主治医とのムンテラを通じて、重度化した場合や看取りケアについても話し合う機会を作っている。また文書でも確認を取っている。	入居時に同意を得ている。重度化した場合は医師より職員、家族に体調の説明をもらい、今後の方針を話し合う。協力医療機関と訪問看護師が同じ事業所のため、情報を共有しやすく、医療関係者とも連携をしている。重度化や終末期対応の研修を行い、職員の精神的不安に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講や緊急時の対応マニュアルの整備で職員に急変時や事故発生時の対応の周知徹底を図っている。		

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練では、風水害や夜間想定等の設定も取り入れて、避難や対処の方法を確認すると共に、消防署からの助言も受けて災害対策に活用している。	防災委員を中心に2ヶ月に一度防災訓練を行っている。消防署が参加してくれた時は時間を要したのでバスタオルや毛布に乗せて動かす方法を教わった。避難トリアージもある。備蓄は1週間分あり、ミキサー食の利用者には、離乳食で代用できることを市から教えてもらった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様の尊厳の保持とプライバシーの確保を常に意識してサービス提供を行っている。	接遇研修は本社で行われている。カーテンやドアを開けっ放しにしない等プライバシーには特に気をつけている。写真の掲載も本人、家族に同意を取って掲示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の自己決定を尊重し、自己表現が難しい場合は表情や仕草から御本人の思いを汲取る働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは有るが、決して利用者様に無理強いせず、個別に柔軟な対応を行っている。気候や精神面・健康面からもその方の気持ちや体調を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の選択や訪問利用によるヘアカット時には御本人の希望を取り入れている。化粧やマニキュアを嗜まれている方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力やADLと御本人の意向を活かしながら、無理のない範囲で、簡単な調理や野菜の下ゆえ・配膳や下膳・食器拭き等に参加して頂いている。	メニューは利用者の体調や季節感を考慮して柔軟に決めている。朝食がパンと紅茶の利用者にも別メニューで対応している。誕生日や行事の時はお楽しみメニューを用意している。職員も利用者と同じものを一緒に食べ、会話がはずんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談しながら、利用者様の嚥下状態や栄養状態に応じた食事や補水の支援を行っている。主治医指示の下で、ゼリーや栄養補助食品も取り入れている。		

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシや口嗽液だけでなく、スポンジブラシや口腔ティッシュも利用して、利用者様の状態に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し、個別の排泄リズムを把握してケアに反映させている。夜間も誘導やポータブルトイレの利用で排泄の自立を促している。	排泄表を活用して、利用者毎のリズムで排泄ケアを行っている。パット、おむつ、ポータブルトイレを使い、できるだけ自立を促している。2人介助でトイレに連れて行くこともある。101歳の利用者は排泄が自立で布パンツを使用していた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、寒天ゼリーや食物繊維を取り入れた食事、牛乳やヨーグルトの提供、体操や腹部マッサージ等で、便秘予防と自然排便の促しに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤の使用や時間帯の工夫等で、利用者様がリラックスして入浴頂けるように努めている。入浴困難な場合は足浴や手欲で清潔保持と気分転換を図っている。	介護度が高い利用者が多い関係で、シャワー浴が増えているが、また、足浴や手浴も行って気持ちよく過ごせるようにしている。入浴の日や時間は決めていない。座位の難しい利用者は訪問看護師の手伝いで入浴する場合もある。入浴剤の利用でリラックスして職員との会話がはずんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の環境整備や照度・室温調整で安眠できる空間作りを行っている。夕食時はノンカフェインの麦茶を提供している。希望の方は午睡されたり、音楽のBGMを流したりして休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情報書での情報共有や居宅薬剤管理指導により薬剤師からの指導や助言を受けながら、適切な服薬支援を行えるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事を活かしてお手伝いに参加頂いたり、役割分担をして協力頂いている。塗り絵や読書等の趣味活動や、仏壇への御供えや植物の水やり等も支援している。季節行事や催事も企画し楽しんで頂いている。		

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩には出来る限り対応している。自宅や御家族様宅への外泊や御家族様と旅行へ行かれる方もいらっしゃる。民生委員に協力頂き、地域夏祭りにも参加した。	以前は近くの寺まで散歩に言っていたが体力的に難しくなってきた。家族の協力で外食や外泊を楽しむ利用者もいる。近くにいちご狩りに出かけた時は楽しそうな笑顔がみられた。	介護度が高くなり、重度化の利用者もいるため、なかなか外出ができなくなったが、日光浴等を行う機会をみつけて気分転換を図ってください。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理規定と契約に基づき、ホームでも個人がお金を利用出来るように支援している。個人で財布を持たれている方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様への電話や手紙・葉書のやり取りの支援を行っている。個人で携帯電話を所持されている方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は快適さと清潔さを維持出来るように努めている。リビングは季節のディスプレイや利用者様の作品を掲示して楽しんで頂けるようにしている。プライバシーや防犯にも配慮している。	整理整頓が行き届いていて、清潔さがある。装飾はユニット毎工夫され、季節感がある。行事の写真が壁に貼られていてそれぞれのシーンでコメントがかかれています。家族の面会の時など会話のきっかけとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや談話コーナーを設けて、利用者様に自由に御利用頂いている。ソファで寛がれたり、談話コーナーで談話される利用者様の姿がよく見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人や御家族様の希望に基づき居室内は、御自宅やこれまでの環境と同じようにレイアウトして利用頂いている。仏壇や観葉植物を置かれたり、家族写真・仏壇・創作作品等を飾られている方もいらっしゃる。	日当たりの良い各部屋に自宅で使っていた絨毯や畳が敷かれていて、今までの生活が継続できるように支援している。転倒防止に家族と話し合っってクッション材が敷き詰められていた。生花が飾られている部屋や明るいカーテンの色が華やかである。ベッドの位置も動線に配慮して移動している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレの表示を大きく分かり易くする、居室前に個別のプレートを掲げる等の工夫で、利用者様が混乱せずに自立生活を送れる環境を作っている。利用者様それぞれの動線を考慮し、物の配置は安全にも配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600568		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	静岡県三島市徳倉3-1-51		
自己評価作成日	平成29年11月19日	評価結果市町村受理日	平成 30年 1月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=2270600568-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 12月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私らしく あなたらしく」を理念に、利用者様一人一人に寄り添うケアを大切にしています。食事は好みに応じた栄養バランスの良い手作りの料理を提供し、利用者様に食べる楽しみと喜びを感じて頂いています。定期的な回想法や体操のレクリエーションを通じて利用者様の体と心の活性化と健康維持を図っています。看取りにも対応し、最期までホームでその人らしく生活して頂ける様に医療と連携しながら支援しています。市内の中学校での認知症サポーター養成講座講師派遣や職業体験学習の受入れ等も積極的に行い、地域社会に認知症介護への理解と協力を発信しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「私らしく あなたらしく」をホーム玄関と事務所内に掲示し、職員は常に意識しながら実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域行事に参加協力したり、回覧板等で情報共有している。事業所としても地域の保護司・募金活動・幼稚園児の安全支援・サッカーや野球少年団の活動に賛同協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が市内中学校で認知症サポーター養成講座の講師を担当し、認知症理解とケアについて講座を行っている。地域の中学生職業体験学習の受入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や課題をホーム会議やユニット会議で取り上げ、サービスに反映させている。ホームの利用者様の声は会議に出席されている三島市介護相談員様からも報告が有る。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	三島市のグループホーム連絡協議会に参加し、今年度は協会事務局としても市や他事業所との連携協力を図っている。事故報告・利用状況・運営推進会議内容等の行政報告も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行い、管理者を長とした身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束を行わないケアを実践している。事業所内で身体拘束廃止研修を実施したり、ポスターを掲示している。玄関は夜間帯以外は施錠していない。		

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会・事故対策委員会を中心に、高齢者虐待防止について職員と共有し、事業所内の虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度利用の入居者様はいないが、情報はファイルし職員が内容を共有したり、相談があった際に対応出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者から重要事項説明を十分に行い御納得頂いた上で、契約締結している。改定時は説明の上、文書で同意確認も行っている。解約時は不明点や疑問点があれば解約後も随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置や家族会の開催だけでなく、利用者様からは普段の生活の中で、御家族様からは面会時や電話連絡時等で、意見や要望を伺う様に努め、運営に反映させている。三島市介護相談員様も毎月利用者様の声を届けて下さっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議で意見提案を聞いたり、日常の業務の中でも意見提案を管理者に伝えられるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社による労務管理や給与改定の下に、事業所内でも職員個々の能力を鑑み、事情に配慮した職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の助成金制度を利用し3名の職員が働きながら初任者・実務者研修を受講し、介護福祉士を目指している。法人内外の研修にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の管理者会議や管理者・職員研修の開催、市や地域の連絡会や研修会への参加を通じて、サービスの質向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントや入居前面談を丁寧に行い、御本人の思いを十分に汲取り、信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から御家族様や関係者の要望や悩みを細かく伺い対応している。センター方式等で御家族様の思いや意向も伺い、サービスに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後のカンファレンス等で実際にホームで生活する上での利用者様の状況を確認しながら、御家族様の要望も踏まえて、最適なケアが提供出来る様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の尊厳と自己決定を大切にし、敬意と寄り添う気持ちを持って利用者様と向き合う様に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様ともコミュニケーションを取りながら、御家族様・職員が共に協力し利用者様を支援出来る関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会や、御家族様に御協力頂きながら馴染みの場所への外出の機会を支援している。馴染みの美容院や寺院へ外出される利用者様もいらっしゃる。		

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者様同士が自然な形でコミュニケーションを取り易い環境を作っている。医療上、ベッドで過ごされている方も離床し共用部と一緒に過ごす時間を持つように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様の御家族様がホームを訪問されたり、病院や施設の相談員やCMから相談を受けたりする事も有り、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	看取りも含めた総合的な御本人の意向や願いを伺い、ホームで出来る限りの支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用や面談だけでなく、日常会話や面会時の談話等からも利用者様の生活歴やバックグラウンドを理解する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス等で個別のADLや状態を共有し、利用者様の出来る事を活かして、現状に合った支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMを中心としてユニット職員全体がモニタリングを行うと共に、御本人や御家族様の要望、医療職や関係者の助言や意見も取り入れ、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ベースとなる書式以外にも必要に応じて24時間シートや個別シートを作成活用し、情報共有と利用者様の状態把握に努め、ケアに取り入れている。		

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内だけでなく、医療機関や地域活動やボランティア等と連携協力を図りながら、様々な角度から支援出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や自治会、地域包括支援センターや民生委員と連携協力し、地域資源を活かしてその人らしく生活出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関だけでなく、利用者様の希望される医療機関や専門医の受診支援、緊急時の入院加療の支援等を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護時に看護師への情報提供や相談を行っている。職員が事前に看護師に伝達する内容を記入するシートを活用し、細かな情報もきちんと報告出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者やCMが病院のMSWと連携協力し対応している。病状的にホームへの帰設困難な場合はMSWや御家族様と相談しながら必要なサービスが受けられるように支援している。病院や医師会主催の研修会等にも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の面談や主治医とのムンテラを通じて、重度化した場合や看取りケアについても話し合う機会を作っている。また文書でも確認を取っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講や緊急時の対応マニュアルの整備で職員に急変時や事故発生時の対応の周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練では、風水害や夜間想定等の設定も取り入れて、避難や対処の方法を確認すると共に、消防署からの助言も受けて災害対策に活用している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様の尊厳の保持とプライバシーの確保を常に意識してサービス提供を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の自己決定を尊重し、自己表現が難しい場合は表情や仕草から御本人の思いを汲取る働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは有るが、決して利用者様に無理強いせずに、個別に柔軟な対応を行っている。気候や精神面・健康面からもその方の気持ちや体調を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の選択や訪問利用によるヘアカット時には御本人の希望を取り入れている。化粧やマニキュアを嗜まれている方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力やADLと御本人の意向を活かしながら、無理のない範囲で、簡単な調理や野菜の下拵え・配膳や下膳・食器拭き等に参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談しながら、利用者様の嚥下状態や栄養状態に応じた食事や補水の支援を行っている。主治医指示の下で、ゼリーや栄養補助食品も取り入れている。		

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシや口嗽液だけでなく、スポンジブラシや口腔ティッシュも利用して、利用者様の状態に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し、個別の排泄リズムを把握してケアに反映させている。夜間も誘導やポータブルトイレの利用で排泄の自立を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、寒天ゼリーや食物繊維を取り入れた食事、牛乳やヨーグルトの提供、体操や腹部マッサージ等で、便秘予防と自然排便の促しに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤の使用や時間帯の工夫等で、利用者様がリラックスして入浴頂けるように努めている。入浴困難な場合は足浴や手欲で清潔保持と気分転換を図っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の環境整備や照度・室温調整で安眠できる空間作りを行っている。夕食時はノンカフェインの麦茶を提供している。希望の方は午睡されたり、音楽のBGMを流したりして休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情報書での情報共有や居宅薬剤管理指導により薬剤師からの指導や助言を受けながら、適切な服薬支援を行えるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事を活かしてお手伝いに参加頂いたり、役割分担をして協力頂いている。塗り絵や読書等の趣味活動や、仏壇への御供えや植物の水やり等も支援している。季節行事や催事も企画し楽しんで頂いている。		

静岡県(グループホーム ひかり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩には出来る限り対応している。自宅や御家族様宅への外泊や御家族様と旅行へ行かれる方もいらっしゃる。民生委員に協力頂き、地域夏祭りにも参加した。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理規定と契約に基づき、ホームでも個人がお金を利用出来るように支援している。個人で財布を持たれている方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様への電話や手紙・葉書のやり取りの支援を行っている。個人で携帯電話を所持されている方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は快適さと清潔さを維持出来るように努めている。リビングは季節のディスプレイや利用者様の作品を掲示して楽しんで頂けるようにしている。プライバシーや防犯にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや談話コーナーを設けて、利用者様に自由に御利用頂いている。ソファで寛がれたり、談話コーナーで談話される利用者様の姿がよく見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人や御家族様の希望に基づき居室内は、御自宅やこれまでの環境と同じようにレイアウトして利用頂いている。仏壇や観葉植物を置かれたり、家族写真・仏壇・創作物等を飾られている方もいらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を大きく分かり易くする、居室前に個別のプレートを掲げる等の工夫で、利用者が混乱せずに自立生活を送れる環境を作っている。利用者様それぞれの動線を考慮し、物の配置は安全にも配慮している。		